

おとめ ごころ
乙女のバカ心

ゆめ おとめ お
夢みる乙女ほど手に負えないものはない。

かのじよ じゆぎょうちゆう どうげこうちゆう でんしゃ
彼女らはいつもボーっとしている。授業中でも登下校中でも電車の

なか
中でも、すぐにボーっとしてしまう。

ゆめ しょうじよ じつ たいへん う
わたしが夢みる少女だったころも実に大変であった。生まれつきボー
っとしているわたしが、日常生活に夢まで取り入れて生きた時期であるか
ら、そのボーっとし具合ときたら、水族館の水槽の中をグルグル泳ぐまぐ
ろのようであった。

ゆめ しょうじよ しょき じゅうご ろくさい
夢みる少女の初期のころ（十五、六歳ごろ）、わたしはさまざまな
げいのうじん ねつ あ はらたつり わたなべとおる
芸能人に熱を上げていた。原辰徳、渡辺徹をはじめ、CMタレントの
しょうねん わかて わら ぶんや つぎつぎ す
少年や若手お笑いスターまで、さまざまな分野にわたり次々と好きになっ
ていった。

わたなべとおる か
渡辺徹にはラブレターまで書いた。

ゆめ しょうじよ こわ す げいのうじん
夢みる少女の怖いところは、好きになった芸能人が、もしかしたら
じぶん ふ む おも こ
自分に振り向いてくれるかもしれない、と思い込んでいるところである。

わたなべとおる てがみ へんじ あ
わたしも渡辺徹がもしも手紙の返事をくれて、もしも会うことになっ

て、もしもつきあうことになったらどうしよう……と本気で心配しながらも
期待していた。

ファンレターを出してから三ヶ月後、わたしの期待とは裏腹に、商魂た
くましいファンクラブの案内状が届いた。そのころから渡辺徹は太り
始め、わたしの情熱も冷めていた。

芸能人に夢中になるのをやめたわたしは、理想の男を勝手に作り上げて
はボーっとする、夢みる少女第二期に突入した。

ボーっとしている頭の中では、いつでもわたしの好みのタイプの少年
が、かなり美化された私とつきあわされていた。

彼は背が高く頭がよく、芸能人にもいないほどすてきな顔立ちをして
おり、優しく誠実でそのうえお金持ちであった。現実にはいるはずもな
く、万一いたとしても絶対わたしなんかとつきあうはずはない。そんな男
が空想の中ではわたしの思うままなのだ。

わたしの空想パターンはだいたい決まっていた。美化されたわたしは
家柄まですり替え、良家の娘という設定になっている。わたしはおしゃ
れをしてたそがれどきの窓辺で彼を待っていると、間もなく彼はランボルギ
ーニだかフェラーリだか知らないが、とにかく幻のスーパーカーに乗って

わたしを^{むか}迎えに来るのだ。 (後略) ……。

(さららももこ『もものかんづめ』^{しゅうえいしゃ}集英社より)